

令和5年2月定例会 一般質問（概要）

令和6年3月5日（火）

西田 薫 議員



（西田薫議員）

今議会の最後の質問者となりました。もうしばらくお付き合いのほどよろしくお願
いいたします。それでは早速質問させていただきます。

1. 拉致問題に関する啓発活動について

（西田薫議員）

毎年12月10日～16日は拉致問題の啓発週間となっております。昨年12月の府政
だよりでは、一面、そして全面を使い、拉致問題の記事を掲載いただきました。吉村
知事、府民文化部長、人権局の皆さんには心から感謝お礼申し上げます、と申し上げ
たいところではありますが、まだ拉致問題は解決しておりません。感謝申し上げると
いうよりも、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

そしてまた、教育庁におかれても、毎年、全校全生徒に対して、アニメめぐみの視
聴を実施していただいております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

その啓発週間に合わせまして、政府、内閣官房拉致対策本部は北朝鮮人権侵害問題
啓発週間・作文コンクールを実施しています。令和元年は大阪府内の応募数は1校7
作品だったと聞いております。私はもっと多くの生徒の皆さんに応募をしていただき
たいということ、質問させていただいております。

そこで、今年度の応募状況とその結果について、教育長からご答弁を求めます。

(教育長答弁)

○ 府教育庁では、府立高校に対しましてアニメ「めぐみ」の視聴をはじめ、北朝鮮人権侵害問題啓発週間・作文コンクールへの応募等、拉致問題の理解促進に積極的に取り組んでまいりました。

○ 今年度の作文コンクールにおける府立高校の応募状況については、8校360作品の応募となり、過去最多となっております。作文コンクールの結果としては、英語エッセイ高校生部門において、府立水都国際高等学校の生徒が最優秀賞を受賞いたしました。また、府立寝屋川高等学校と府立水都国際中学校・高等学校が団体賞を受賞いたしました。

○ 今後とも、拉致問題に関して生徒が理解を深めるために、本作文コンクールへの応募等の取組みがより一層広がるよう、引き続き各校に周知してまいります。

(西田薫議員・要望)

ありがとうございます。寝屋川高校と水都国際中学高校が団体賞を取られた、また、最優秀賞も取られたとのことですが、実は、最優秀賞を取られた方に、本会議でお名前と作品をご披露してよいか確認したところ、かまいませんとのことですので、今日はスクリーンにさせていただきます。

北朝鮮人権侵害問題啓発週間・作文コンクール	
<p>To my helpless self Suito Kokusai Senior High School 11th grade, Okuda Risa</p> <p>"It is okay because Japan is at peace." I think somewhere in the back of my mind I was thinking like that. No one can imagine that their beloved family would disappear the day after their birthday. However, that is what actually happened to Megumi Yokota and her family.</p> <p>Watching the anime "Megumi" triggered me to think deeply about the North Korea abduction issue. Even though I could not truly understand the heartache, I was able to put myself in their shoes. It is easy to imagine that both I and my family would suffer if my family became victims or if I became a victim myself. My mother also likes to take pictures and record her experiences, so there was an overlap with Megumi's father, who often took pictures. I felt from the bottom of my heart that this should never happen.</p> <p>"What do you think we should do to get them back?" When my teacher asked me, I thought even if a complete solution was difficult, I thought it was possible to take a step toward a solution or to prevent it. I have two ways to do this.</p> <p>The first is to build community ties. I think it is important to have local connections and watchful eyes in order to prevent not only abductions but also kidnappings. Ms. Megumi was abducted in a secluded place. A system that notifies people that they have left school when they return home may seem a bit cumbersome, but I thought it would be good to utilize such a system as well, since we believe it also prevents incidents.</p> <p>The second is to communicate the information without letting it fade away. I think that the fading away of the incident is the worst thing that can happen to the victims' families and in terms of the prevention of future incidents. Megumi's brother also said, "The thing I fear the most is the fading away of the incident."</p> <p>Also, in "Megumi," what impressed me was Megumi's mother's comment, "I don't hold grudges against the North Koreans. I just want them back. Even with the abduction and missile issues, it is not okay to hate North Korea as a whole." Simply hating North Korea will not solve anything, and only time will pass. Since this is a problem between countries, I felt that it is important for the people of the country to raise their voices together. In addition, in "Megumi," I was also impressed by the fact that passively ignored the flyers of the victims' families. We must not think that it is irrelevant, but think of it as if it were our own matter and raise our voices.</p> <p>It is easy to think that we cannot do anything because we are powerless. However, that will not change anything. It is important to actively communicate with local people and schools, to use systems to ensure safety, and to be very aware of the abduction issue and communicate it.</p>	<p>英語エッセイ高校生部門 最優秀賞受賞作品 〈原文〉</p> <p>1</p>

字が小さいのですが、原文全て載せたいということで、ご了承いただきたいと思えます。

この最優秀賞をとられた生徒さんは、水都国際高校2年生の、奥田 莉有さんです。教育委員会のみなさんから、英語エッセイの部ということなので、和訳したものをい

いただきました。それに沿いまして少し説明させていただきたいと思っております。

冒頭ですね、「日本は平和だから関係ない、私はそんなふうになんか心の中で考えていたと思う」という駆け出しの文章なんです。これ全て素晴らしい内容です、ただ時間の関係があるので、抜粋をさせていただきます。下段の方、最後の2段目、アニメめぐみの中で印象的だったのは」という書き出しがあるんです。これはですね、お母さんが、お母さんというのは横田早紀江さんです、お母さんが、『『北朝鮮の皆さんを恨んでいるわけではない、ただ返してほしいだけ。』と発言していた部分、ここが非常に印象に残った」ということを書かれているんです。そういった部分に思いを寄せられるというのは素晴らしいことだというふうに思っています。

そして一番最後ですが、「自分には力がないため、何もできないと考えることは簡単だ。しかし、それでは何も変わらない。拉致問題を強く意識して、伝えていくことが大切なのだ。」と締めくくられているんです。本当に素晴らしい作文です、受賞おめでとうございます。

ぜひ教育長におかれましても、引き続き、より多くの生徒の皆さんがこの作文コンクールに応募できる環境づくりにご尽力賜わりますこと、よろしくお願い申し上げます。

2. 埋め込み式信号について

次は、埋め込み式信号についてお伺いをさせていただきます。

現在、韓国におきましては、この埋め込み式信号が導入をされている、また、交通事故が軽減に大きな効果があるというふうに聞いております。スクリーンをご覧ください。



これは実際、韓国で設置されている信号機ということでありまして。これは、高齢者

の方、また、障がいをお持ちの方々でも非常に負担軽減になるんじゃないかと思っておりますし、わが国でも、導入したいというふうに思っています。いわばこれ、日本の信号の概念を変えるんじゃないかというふうに思っているんですが、こういった信号機を設置するにあたってどういった手続きが必要か、府警本部長にお伺いします。

(警察本部長答弁)

これまでに、国内で設置されていない交通安全施設の補助装置については、まず、その有効性の判断や、事業者による当該装置の動作確認結果を受け、道路上への設置に問題がないことを確認いたします。その上で、警察庁に対して

- 道路上への試験設置を行うための意見照会
- 試験設置によって得られた効果、反響等の確認及び分析結果を踏まえた協議を行うという手順を経て、導入の適否を見極めることとなっています。

(西田薫議員)

警察庁と協議をするということではありますが、こういった声が上がっていたということも、しっかりお伝えいただきたいと思っておりますし、ぜひ、前向きにご検討いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

3. 寝屋川北部地下河川について

(西田薫議員)

それでは、次に移りたいと思います。次は、寝屋川北部地下河川についてであります。

平成 24 年、守口東部において集中豪雨があり、多くの床上、床下浸水の被害に遭われました。それを期に、府道 15 号線の下です、パネルをご覧ください。



中央の部分なんです、門真守口増補幹線の工事が始まりました。本年6月に完成すると聞いています。都市整備部長は、横にいらっしゃいますが、引き続きよろしくお願いたします。

そして、この門真守口増補幹線ですが、一定の水量を超えると、寝屋川北部地下河川に排出すると聞いています。次のパネルをお願いします。



この黒く示している部分、この2本、分かれているんですが、これが寝屋川北部地下河川なんです。ちょうど真ん中の下段になります、鶴見立坑というものがありますが、右に行くと上流になります、斜め上に行くんですが、門真にあります松生立坑、ここまでの工事が令和3年の3月に完成しています。

そして次は、鶴見立坑の左側です。次のパネルをお願いします。



城北立坑から鶴見立坑までの工事に関する議案が、今議会で上程されております。これが完成しますと、そこは鶴見調節池ということになりまして、この地図ではピンクに示している部分。旭区、そして、城東区も入りますが鶴見区の皆さんにとりまして、浸水被害を軽減するというふうに、大いに期待をしています。最終的に、寝屋川北部地下河川というのは、大川の方に排出するということでもあります。

ただ、この事業は、先ほどいいましたとおり、守口、門真、そしてまた旭、鶴見の皆さんにとりましても、非常に大事な事業でありますので、ぜひ引き続き、しっかり取り組んでいただきたいと、お願い申し上げます。

4. 在日外国人に関わる教育における指導の指針について

それでは、次の質問に移ります。次は、教育の指針についてお伺いをさせていただきます。昭和 63 年に、在日韓国・朝鮮人問題に関する指導の指針というものが作成されました。これ、教育長。一度、平成 10 年に一部改訂されているかと思いますが。そして今回、大きく見直しをされ、標題まで変わっていると聞いている。今回新しいのは、在日外国人に関わる教育における指導の指針ということが変わっていると。従来は、前の指針が影響していたのかわかりませんが、非常に、韓国・朝鮮文化に特化した、それも行き過ぎた、偏向教育がなされていたということを、私、教育常任委員会で何度も指摘をさせていただきました。今回、指針の内容も変わっています。表題も変わっています。今後は、そういった偏向教育がないと思っておりますが、教育長ご答弁願います。

(教育長答弁)

○ 学校現場においては、外国人児童生徒の増加、国籍の多様化が進んでおります。その中で子どもたちが、自身の国・地域の言葉や文化を大切にし、誇りを持つようになることで、異なる国・地域を尊重するとともに、互いの理解が深まると考えていることから、このような観点での学びの支援が重要であると考えております。

○ この度策定した「在日外国人に関わる教育における指導の指針」に基づいて、韓国・朝鮮など特定の国・地域に偏ることなく、子どもたちの実態に応じた適切な教育を進めてまいります。

(西田薫議員)

ぜひ、よろしく願いいたします。確かにこれ、前の指針です、一部抜粋しますと、「日本が朝鮮を植民地として支配した過程において多くの人々が日本への移住を余儀なくされ」という文言があったんです。これにつきましては、我が会派の西野 弘一議員が何度も指摘をされていて、そして今回、この部分が削除されて、見直しをされたというふうに認識をしております。ただですね、この当時、と言いますか、日本、社会全体がですね、こういう認識を持っていたんじゃないかと思うんですね。といいますのは、1980 年代と言いますと、毎年、「強制連行」というのが新聞でも報道され

ていたかと思うんですね。そのもととなるのは、吉田清治氏の証言だったと思いますが、産経新聞をはじめ主要メディアというのは、どうもその証言に信ぴょう性がないということで、報道をしなくなりましたが、最後に、朝日新聞が、吉田清治氏の証言は、虚偽であるということで、記事を、取り消し、そして謝罪訂正をしたというのがこれ平成 26 年です。ですのでそれ以前に作られた指針ということで、こういった内容になっていたんじゃないかなと思っています。ただその当時と今、歴史認識が大きく変わっておりますので、しっかりと、正しい歴史認識の下に、しっかりとした教育を、子どもたちにしていっていただきたいということを、併せてお願いを申し上げます。



5. 重症心身障がい児者等のご家族への支援について

それでは次の質問に映ります。次は、重症心身障がい児者のご家族の方への支援についてお伺いします。この質問に関しましても、私、平成 24 年、25 年、そして 27 年と、質問させていただきました。今日これあまり時間がありませんので、概要だけお話しをしますと、要はこれ、障がいをお持ちのお子さんのご家庭の方、その親御さんが、同じく障がいを持たれていれば、障がい福祉サービスを受けられる。もしくは、65 歳を超えておられれば、高齢者福祉のサービスを受けられる。しかし、双方に該当がない場合は、これ、何もサービスを受けられない、要は法と法のはざまになっている、光の当たっていない部分であって、光を当ててほしいという質問をさせていただいたと思うんです。そういった中、大阪府では第 4 次障がい者計画の中で盛り込んで

いただきました、本当にありがとうございます。そして、それからの大阪府の取組みについて、ご答弁いただきたいと思っております。

それともう一つ、令和3年の9月に、「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」これが施行をされました。私、この問題、平成24年から訴えておりました。ようやくこの法律ができたなというふうに思っているんですが、ただ、この法施行に伴いまして、大阪府におきましては、医療的ケア児支援センターが設置されていると。これは、素晴らしいことだと思っております。そこでこの支援センターが一体、ご家族の方に、こういった支援を、サービスを提供されるのか、併せて、福祉部長、ご答弁願います。

(福祉部長答弁)

○ まず重症心身障がい児者とその家族の支援について、府としては、平成24年度から、医療、福祉等の関係機関の円滑な連携体制のもとで地域生活の維持継続のための地域ケアシステムの整備に取り組んでおり、支援体制のネットワーク構築や、障がい福祉サービスの充実強化などを図ってまいりました。

○ とりわけ、ご家族の休息、いわゆるレスパイトのニーズに応えるため、府内すべての二次医療圏域で高度な医療的ケアに対応できる医療型短期入所を実施する病院の確保に努め、当初3か所であった実施病院は、現在10か所に拡大しております。

○ 今後、これまでの取組みの効果検証を行うとともに、引き続き、実施病院のない2つの二次医療圏域については、地元市町村とともに病院への働きかけを強化し、設置を進め、重症心身障がい児者の地域生活を支える基盤整備に取り組んでまいります。

○ 次に、医療的ケア児支援センターによるご家族支援について、医療的ケア児やそのご家族に対しては、ライフステージを通じた切れ目のない支援が必要であり、子どもの成長に伴って支援機関が変わったときにも円滑に支援を受けられることが保護者の安心につながります。そのため支援センターが各地域での機関連携の好事例を共有し、各関係機関がより連携を深めながら、一貫した支援が提供できるよう取り組んでおります。

○ 今後も、医療的ケア児やその家族の状況や地域生活での不安や困りごとなどについてのニーズを踏まえまして、地域での生活を支えてまいります。

(西田薫議員)

ぜひ、よろしく願いいたします。私は以前、障がいをお持ちのお子さんの保護者の皆さんの集まりにお招きをいただきました。保護者の皆さんと言いましても、70代80代の皆さんで、お子さんといっても50代、60代の方々なんですね。あるお母さんが私にこう言われたんです。「私は、子どもよりも1日でも、いや10分でも長生きしたい。長生きしなきゃいけないんです」ということを言われたんです。それはね、自分の亡き後、本当に子どもは大丈夫だろうかという、社会に対する不安、この表れだ

ったんじゃないかと思っております。

よく、政治家や政党は、福祉、福祉の充実を訴えます。確かにきれいな言葉です。しかし私は、福祉が充実すれば充実するほど、地域の関係、家族の関係が疎遠になっていく部分もあるんじゃないかというふうに思っているんですね。昔は、きょう食べるものがないというふうになれば、周りの人が、お米や野菜を持ってきてくれたんです。しかし、今は生活保護があります。昔は、自分の親が動けなくなった、働けなくなったときは、子どもが面倒を見ていたんです。しかし、今は介護保険があるんです。このように、福祉が充実すれば充実するほど、地域の関係、家族の関係は、少し、遠くなってしまうんじゃないかと思うんですが、ただ、この障がい者福祉。これは、これだけは、しっかりと行政がサポートしないとイケないというふうに思っております。福祉部長、多くの福祉を所管されているかと思うんですが、その中でも障がい者福祉に対しましては、引き続きしっかりとご支援をいただきたいということを、よろしくお願い申し上げます。

6. 緊急一時避難施設の指定及び弾道ミサイル対応の周知・啓発について

それでは次、最後の質問に移ります。次は、弾道ミサイルの対応についてお伺いをいたします。昨年から本日まで実に、北朝鮮は 19 回 26 発にわたって弾道ミサイルを発射しております。

私は、そういったミサイルに対応するためにも、緊急一時避難施設を作らないとイケない、また、整備をしなくてはイケないということをこれまで質問させていただいております。

そこで、今年度の取組み、また、そういったものを多くの府民の皆さんにわかっていただかなければならないことから、こういった手段で、周知を図っていくのか、これ併せて、危機管理監にご答弁願います。

(危機管理監答弁)

○ 北朝鮮が弾道ミサイルの発射を繰り返すなか、緊急一時避難施設を新たに指定するとともに、緊急一時避難施設の場所と、緊急情報が流れた際にとっていただく行動について府民に広く啓発し、認識していただくことは非常に重要です。

○ 今年度は、緊急一時避難施設として JA や大学さらには鉄道駅舎など、新たに 223 か所を指定し、人口カバー率も 105%から 131%に増加したところでございます。

○ 周知・啓発については、ミサイル落下時の行動について、今年度、新たに府内の高校 3 年生約 7 万人にリーフレットの配布を行い、いざという時に自身の命を守る行動をとっていただけるよう啓発を行ったところです。また、府政だよりでも周知・啓発を行うとともに、府内市町村とも連携し、今年度 19 市町村の広報誌に掲載していただいたところでございます。さらには、先の 1 月 31 日に提供を開始した大阪防災アプリでも緊急一時避難施設を確認できるようにするなど様々な媒体を用いて周知

を行っております。

○ 来年度も教育庁の協力をいただきながら、引き続き高校3年生にリーフレットを配布するとともに、新たに危機管理室の職員が府立高校に赴き、弾道ミサイル飛来を想定した出前訓練の実施を予定しているところです。

○ 今後とも、市町村や民間企業などとも連携し、様々な手法を用い、より効率的な、効果的な周知・啓発に積極的に取り組んでまいります。

(西田薫議員)

引き続きよろしく願いいたします。少し前であれば、やっぱりテレビ画面も、ミサイル発射となれば緊急速報に代わるぐらいだった。今はもうテロップが流れるくらいになっている。ちょっと、我々日本人も慣れっこになっているんじゃないかと。こういったことはより危険かなと感じていますので、引き続きしっかりとよろしく願いいたします。

そこで、危機管理監は、今月3月でご退職されると聞いています。長きにわたり本当にありがとうございました。せっかくの機会ですので、この府庁勤務をふり返ってのご感想、そしてまた、府行政に対する期待など、お話しいただければと思いますが、よろしく願いします。

(大中危機管理監)

○ 西田議員より、退職にあたり、発言する機会をいただきましたので、一言、申し上げさせていただきます。

○ 私が大阪府庁に入庁以来、36年、特に財政、行財政改革や企画室を中心に、業務を担わせていただきました。財政、行財政改革の担当時代にはバブルが崩壊しまして、府の財政が悪化しました。財政再建団体にならないために、数度の行財政改革プランを策定し、取組みをすすめてきたところでございます。そのときの経験で言いますと、時々の知事のスタンスによって、改革のスピードが如実に変わることを、身をもって体験したところでございます。

○ また、企画室の担当時代には、大阪府として最後となります総合計画の策定に携わるとともに、橋下知事時代には、今まで文書で策定するのが当たり前でありました計画を、知事の方から、府民に見やすく手に取っていただくべきということで、文章を少なく、プレゼンテーション形式による計画の策定のご指示がありまして、将来ビジョンなどの計画の策定を行ったことが印象に残っているところでございます。

○ 加えまして、ライフサイエンスの振興、当時はバイオサイエンスと称しておりましたけれども、国と関連都道府縣市と連携を行いまして、大阪・関西をバイオサイエンスの拠点として位置付けるべく、都市再生地域に位置付けられたことを経験し、いまのライフサイエンスの振興に繋がっているものと考えております。

○ ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の対策を中心に行わせていただき、府民の命を第一に、経済との両立を目指しまして、万博や、国際金融の取組みなどを推進させてい

ただいたところでございます。

○ 危機管理監としての2年間は、行政の基本であります府民の生命と財産を守るといふ業務に従事させていただき、直近では令和6年、能登半島沖の能登半島地震の対応を行わせていただいたところでございます。危機管理業務は市町村と府民に直接関係する業務でございます、国民保護など幅広い危機事象に対して対応を検討するとともに、突発的な危機事象に対して適宜対応が求められておりました、緊張した日々を過ごす一方で、やりがいをもって行うことができました。

○ 来年4月、2025年大阪・関西万博が開催されます。万博を成功裏に終えるとともに、これを契機に、国際金融を土台としました関連産業等が育ち、様々な方がチャレンジする大阪となりまして、ここ大阪が、副首都として発展することを願っております。

○ 最後にこれまでご指導賜りました上司、同僚並びにこのような機会を与えていただきました西田議員並び、府議会議員の皆さまに、お礼を申し上げまして、答弁を兼ねたご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(西田薫議員)

本当に長きにわたり、ありがとうございました。また、この3月に、退職される全ての府職員の皆さまに、感謝と御礼を申し上げます。どうぞ健康にご留意をいただき、これからも府政を見守っていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上で、私の質問を終了とさせていただきますが、今回の質問は、例えば拉致問題の啓発活動につきまして、これ大阪だけではダメなんです。全国も同じような動きをしていかなければならない、こう思っておりますし、また、この埋め込み式信号につきましても、守口市も要望しておりますが最終的には、これ、国の判断にもなるというご答弁でありました。そして緊急一時避難施設、これも本来は国がしっかりと整備を図っていかなければならないと思っておりますし、重症心身障がい児者のご家族の方への支援、これもまだまだ法律は不備があるというふうに思っております。このように、大阪だけではダメだと、しっかりと国が動かないといけないと、いう観点で、今回の質問をまとめさせていただきました。

府職員の皆さんにおかれましても、引き続き、大阪府だけではできないこと、しっかりと国に対して要望していただきたいと思っておりますし、私自身、しっかりと、国に対して訴えていきたいということを申し上げます、今回、私の一般質問、終了とさせていただきます。

ご清聴、誠にありがとうございました。